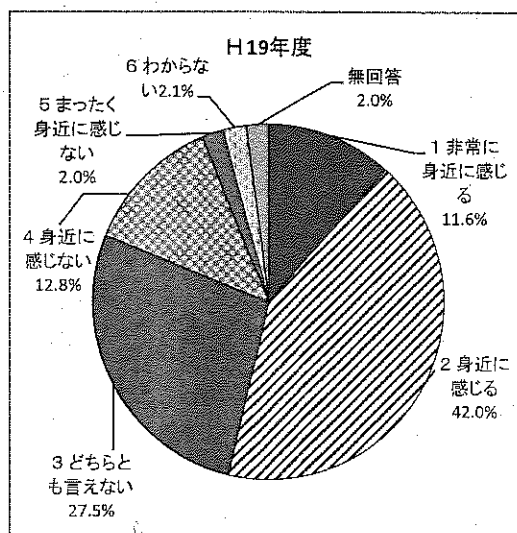
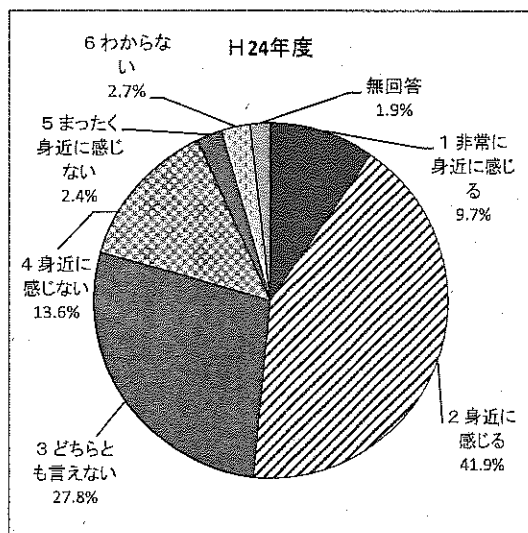


## 2 人権意識

### (1) 人権への親近感

問1 人権を身近なものと感じていますか。(○は1つだけ)



■人権への親近感

(%)

分類	合計 (人)	1 非常に身近に感じる	2 身近に感じる	3 どちらとも言えない	4 身近に感じない	5 まったく身近に感じない	6 わからない	無回答	
総数 (N)	1295	9.7	41.9	27.8	13.6	2.4	2.7	1.9	
性別	男性	522	10.3	40.6	26.6	16.9	2.5	2.5	0.6
	女性	755	9.1	42.9	28.6	11.7	2.4	2.9	2.4
	不明	18	11.1	38.9	27.8	-	-	-	22.2
年齢別	20~29歳	101	6.9	30.7	25.7	21.8	7.9	4.0	3.0
	30~39歳	194	4.1	35.6	37.1	17.0	3.1	3.1	-
	40~49歳	190	10.5	38.4	36.3	10.5	2.6	1.1	0.5
	50~59歳	212	7.1	41.0	29.7	16.5	0.9	2.8	1.9
	60~69歳	300	13.0	46.7	22.7	13.0	1.0	2.7	1.0
	70~79歳	198	12.6	51.5	18.7	10.1	2.0	3.0	2.0
	80歳以上	84	10.7	44.0	22.6	8.3	3.6	2.4	8.3
	不明	16	12.5	25.0	37.5	-	-	6.3	18.8

#### 【回答傾向】

人権を身近に感じているかについては、「1 非常に身近に感じる」が9.7%、「2 身近に感じる」が41.9%で、これらを合わせると51.6%となり、過半数が『身近に感じている(計)』となっている。一方、「5 まったく身近に感じない」は2.4%、「4 身近に感じない」は13.6%で、これらを合わせた16%が『身近に感じていない(計)』となっている。また、「3 どちらとも言えない」は27.8%である。

性別で見ると、『身近に感じる(計)』は、男性が50.9%、女性が52.0%と男性より女性の割合がやや高い。

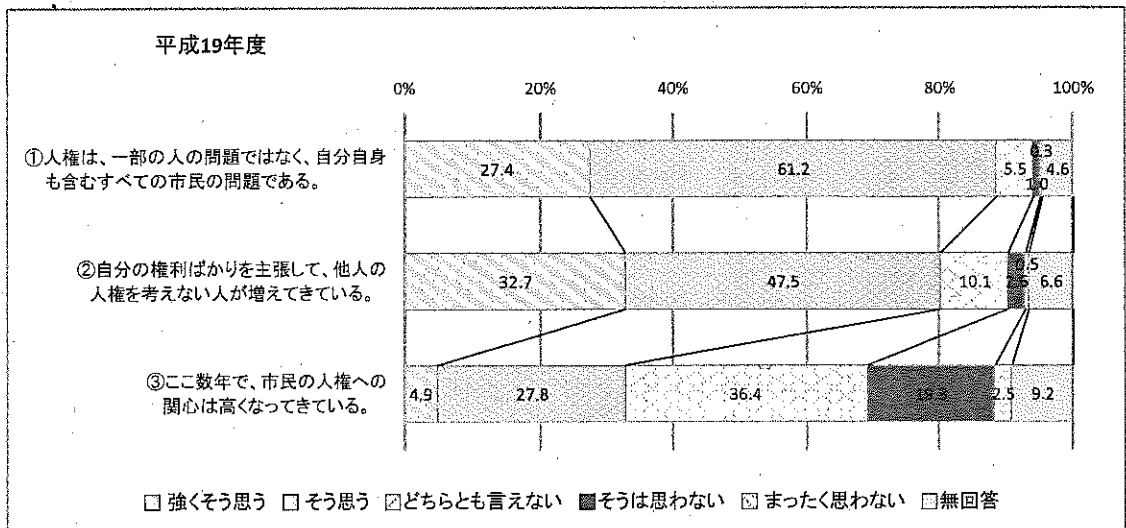
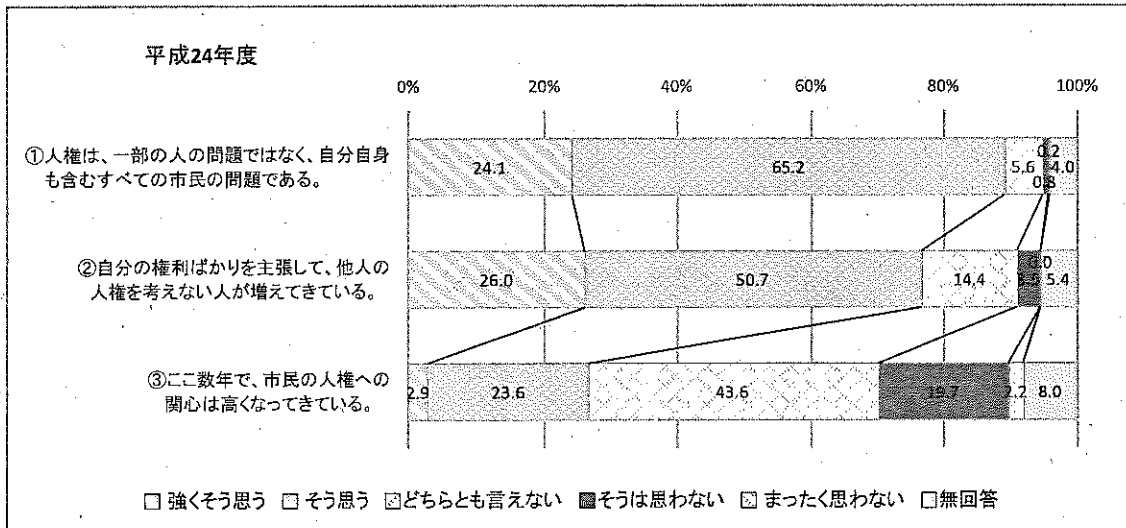
年齢別で見ると、『身近に感じる(計)』は、70歳代が64.1%と最も高く、最も低いのは20歳代で37.6%となっている。

【分析】

前回調査では、50歳以上の62.5%が人権を身近に感じていたが、今回調査では、60歳以上の60.5%が身近に感じると回答している一方、20歳代の若い世代では人権を身近に感じない割合が増えている。

(2) 人権に関する考え

問2 人権に関することについて、どのようにお考えですか。(〇はそれぞれ1つだけ)



■人権に関する考え方

①人権は、一部の人の問題ではなく、自分自身も含むすべての市民の問題である。 (%)

分類	合計 (人)	強くそう思う	そう思う	どちらとも 言えない	そうは 思わない	まったく 思わない	無回答	
総数 (N)	1,295	24.1	65.2	5.6	0.8	0.2	4.0	
性別	男性	522	21.5	66.9	5.9	1.5	0.4	3.8
	女性	755	26.2	64.2	5.4	0.4	0.1	3.6
	不明	18	11.1	55.6	5.6	-	-	27.8
年齢別	20～29歳	101	26.7	62.4	8.9	1.0	1.0	-
	30～39歳	194	23.7	69.1	5.2	1.5	-	0.5
	40～49歳	190	31.6	61.1	6.3	-	-	1.1
	50～59歳	212	19.8	67.9	8.5	0.9	0.5	2.4
	60～69歳	300	24.7	69.3	3.7	1.0	-	1.3
	70～79歳	198	23.2	63.1	3.0	1.0	-	9.6
	80歳以上	84	16.7	56.0	6.0	-	1.2	20.2
	不明	16	18.8	43.8	12.5	-	-	25.0

②自分の権利ばかりを主張して、他人の人権を考えない人が増えてきている。 (%)

分類	合計 (人)	強くそう思う	そう思う	どちらとも 言えない	そうは 思わない	まったく 思わない	無回答	
総数 (N)	1,295	26.0	50.7	14.4	3.5	-	5.4	
性別	男性	522	26.6	51.0	14.0	4.6	-	3.8
	女性	755	25.8	50.3	15.1	2.8	-	6.0
	不明	18	16.7	55.6	-	-	-	27.8
年齢別	20～29歳	101	30.7	44.6	20.8	4.0	-	-
	30～39歳	194	30.9	53.1	14.4	1.5	-	-
	40～49歳	190	25.8	53.7	17.4	2.6	-	0.5
	50～59歳	212	26.9	51.4	15.1	4.2	-	2.4
	60～69歳	300	27.3	54.3	12.0	4.3	-	2.0
	70～79歳	198	21.7	46.5	12.1	3.5	-	16.2
	80歳以上	84	16.7	39.3	13.1	4.8	-	26.2
	不明	16	6.3	56.3	12.5	-	-	25.0

③ここ数年で、市民の人権への関心は高くなってきている。 (%)

分類	合計 (人)	強くそう思う	そう思う	どちらとも 言えない	そうは 思わない	まったく 思わない	無回答	
総数 (N)	1,295	2.9	23.6	43.6	19.7	2.2	8.0	
性別	男性	522	2.1	18.0	44.4	25.5	3.4	6.5
	女性	755	3.6	27.7	43.3	15.6	1.5	8.3
	不明	18	-	16.7	27.8	22.2	-	33.3
年齢別	20～29歳	101	6.9	15.8	45.5	24.8	6.9	-
	30～39歳	194	3.6	20.1	44.8	24.7	5.7	1.0
	40～49歳	190	3.7	23.2	52.1	18.9	1.1	1.1
	50～59歳	212	1.9	27.8	45.8	20.3	0.9	3.3
	60～69歳	300	1.3	26.0	47.3	21.0	1.0	3.3
	70～79歳	198	3.5	24.2	34.8	13.6	1.0	22.7
	80歳以上	84	2.4	23.8	21.4	11.9	2.4	38.1
	不明	16	-	12.5	37.5	18.8	-	31.3

### 【回答傾向】

人権に関する考えについて、各項目の『そう思う（計）』をみると、「①人権は、一部の人の問題ではなく、自分自身も含むすべての市民の問題である」は89.3%あり、ほとんどの人が市民的課題であると回答している。「②自分の権利ばかりを主張して、他人の人権を考えない人が増えてきている」は76.7%あり、義務を軽視する風潮を懸念する意識も強い。「③ここ数年で、市民の人権への関心は高くなってきている」は26.5%となっている。

性別でみると、「①人権は、一部の人の問題ではなく、自分自身も含むすべての市民の問題である」「②自分の権利のみを主張して、他人の人権を考えない人が増えてきている」について『そう思う（計）』の男女の割合は、ほぼ変わらず、一方、「③ここ数年で、市民の人権への関心は高くなってきている」については、男性が20.1%、女性が31.3%と男性より女性の割合が高くなっている。

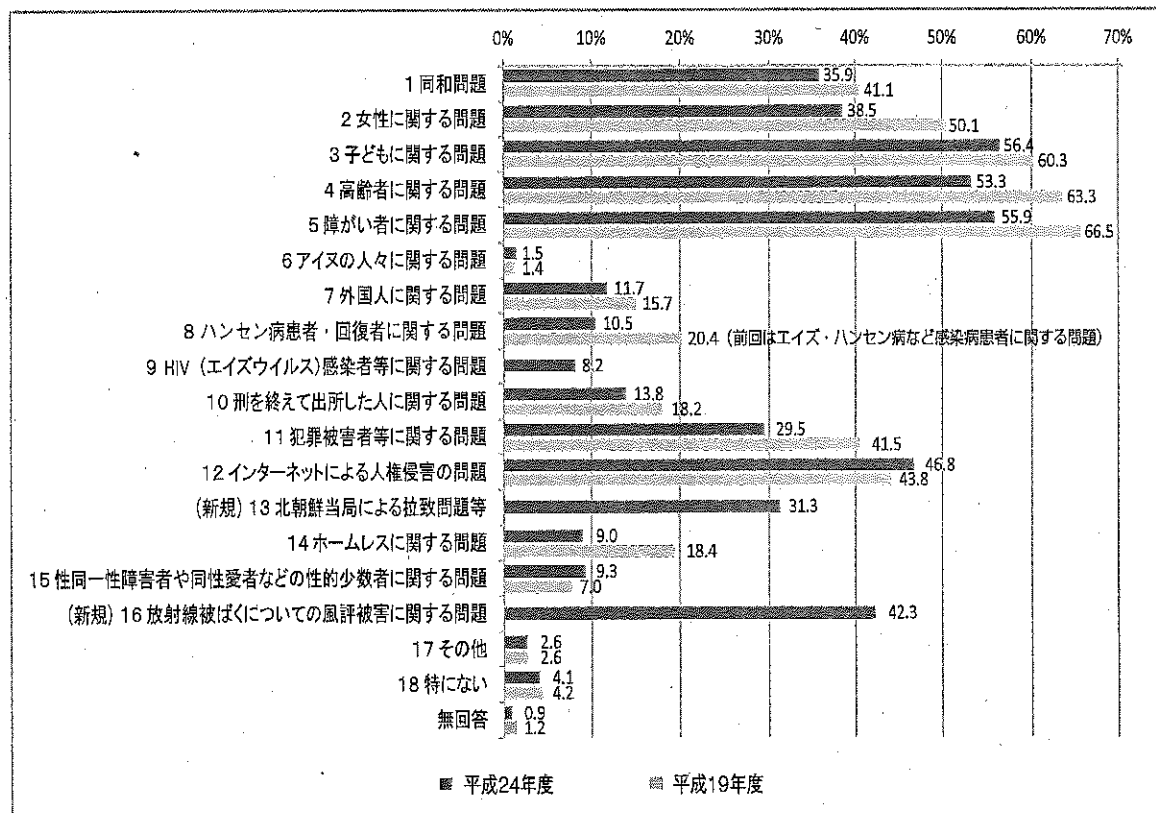
### 【分析】

「ここ数年で、市民の人権への関心は高くなってきている」との意識は前回調査（32.7%）より6.2ポイント減少している。特に、男性は前回調査（28.8%）から8.7ポイント低下している。

一言でいえば、人権は市民的な課題であると理解しているが、権利と義務をはき違えている人が多いとの否定的な意識も強く、関心も低下している。

### （3）関心のある人権問題

問3 人権に関する問題について、特に関心のあるものはどれですか。（5つ〇をつけてください。）



■関心のある人権問題

(%)

分類	合計 (人)	1 同和 問題	2 女性に 関する 問題	3 子どもに 関する 問題	4 高齢者 に関する 問題	5 障がい 者に関 する 問題	6 アイヌの 人々に 関する 問題	7 外国人 に関する 問題	8 ハンセン 病患者・ 回復者 に関する 問題	9 HIV(エイ ズウイル ス)感 染者等 に関する 問題	10 刑を終え て出所し た人に 関する 問題	
総数(N)	1,295	35.9	38.5	56.4	53.3	55.9	1.5	11.7	10.5	8.2	13.8	
性別	男性	522	41.4	25.3	54.8	50.0	58.2	1.5	14.8	10.7	8.6	15.1
	女性	755	32.2	48.1	58.1	55.9	54.6	1.5	9.7	10.3	7.9	12.8
	不明	18	33.3	22.2	33.3	38.9	44.4	-	11.1	11.1	5.6	16.7
年齢別	20～29歳	101	27.7	47.5	61.4	41.6	59.4	1.0	24.8	7.9	17.8	16.8
	30～39歳	194	30.9	49.0	62.9	42.8	50.0	1.5	14.9	8.8	9.3	14.4
	40～49歳	190	40.5	42.6	60.5	42.1	55.8	1.1	12.1	11.6	8.9	12.6
	50～59歳	212	36.8	46.2	49.5	50.9	56.6	0.9	10.8	7.5	8.0	14.6
	60～69歳	300	40.3	31.7	54.3	59.0	63.3	1.3	9.0	12.0	6.3	12.3
	70～79歳	198	37.9	27.3	57.1	69.7	52.5	1.5	8.1	11.1	6.1	15.7
	80歳以上	84	23.8	28.6	53.6	67.9	47.6	4.8	8.3	15.5	4.8	10.7
	不明	16	37.5	25.0	37.5	31.3	43.8	-	12.5	12.5	6.3	12.5

分類	合計 (人)	11 犯罪被害 者等 に関する 問題	12 インター ネットに よる人権 侵害の 問題	13 北朝鮮当 局による 拉致問題 等	14 ホームレ スに関 する 問題	15 性同一性 障害者や 同性愛者 などの性 的少数者 に関する 問題	16 放射線 被ばく についての 風評被害 に関する 問題	17 その他	18 特にな い	無回答	
総数(N)	1,295	29.5	46.8	31.3	9.0	9.3	42.3	2.6	4.1	0.9	
性別	男性	522	33.0	48.3	31.8	11.5	7.7	40.2	3.8	4.4	0.2
	女性	755	27.2	46.5	31.1	7.4	10.7	44.4	1.9	3.8	1.1
	不明	18	27.8	16.7	22.2	5.6	-	16.7	-	5.6	16.7
年齢別	20～29歳	101	20.8	55.4	14.9	7.9	23.8	39.6	1.0	2.0	-
	30～39歳	194	34.5	55.7	17.5	7.2	14.4	42.8	6.2	2.6	0.5
	40～49歳	190	33.2	57.4	24.2	6.8	12.6	40.0	2.1	4.2	-
	50～59歳	212	35.8	48.6	30.2	9.4	6.6	45.8	3.3	4.2	1.4
	60～69歳	300	25.3	44.0	44.3	11.7	6.7	43.7	2.3	2.3	-
	70～79歳	198	28.8	38.9	37.4	8.6	4.0	41.9	-	6.6	1.0
	80歳以上	84	21.4	21.4	41.7	10.7	2.4	44.0	3.6	8.3	4.8
	不明	16	25.0	18.8	25.0	6.3	6.3	6.3	-	12.5	12.5

【回答傾向】

特に関心のある人権問題については、「3 子どもに関する問題」が56.4%と最も多く、次いで「5 障がい者に関する問題」が55.9%、「4 高齢者に関する問題」が53.3%と、上位は5割台となっている。以下、「12 インターネットを悪用した人権侵害の問題」が46.8%、「16 放射線被ばくについての風評被害に関する問題」が42.3%、「2 女性に関する問題」が38.5%、「1 同和問題」が35.9%と回答が続いている。

性別でみると、女性より男性の割合が高い項目は、差が大きい順より「1 同和問題」(男性:41.4%、女性:32.2%)、「11 犯罪被害者等に関する問題」(男性:33.0%、女性:27.2%)、「7 外国人に関する問題」(男性:14.8%、女性:9.7%)、「14 ホームレスに関する問題」(男性:11.5%、女性:7.4%)であり、男性より女性の割合が高い項目は、差が大きい順より「2 女性に関する問題」(女性:48.1%、男性:25.3%)、「4 高齢者に関する問題」(女

性：55.9%、男性：50.0%）、「16 放射線被ばくについての風評被害に関する問題」（女性：44.4%、男性40.2%）、「3 子どもに関する問題」（女性：58.1%、男性：54.8%）、「15 性同一性障害者や同性愛者などの性的少数者に関する問題」（女性：10.7%、男性：7.7%）となっている。

年齢別でみると、20歳代（61.4%）、30歳代（62.9%）、40歳代（60.5%）では、「3 子どもに関する問題」、50歳代（56.6%）、60歳代（63.3%）で「5 障がい者に関する問題」、70歳代（69.7%）、80歳以上（67.9%）で「4 高齢者に関する問題」が最も多くなっている。

### 【分析】

関心が高い人権問題は1位が、子どもの人権、2位が障がい者の人権、3位が高齢者の人権、4位がインターネットの人権問題などである。同和問題など従来の人権課題からいわゆる「フクシマ差別」まで、市民の関心は多様である。女性は女性の人権問題に、若い世代は子どもの人権に、高齢世代は高齢者の人権に、それぞれ自分に身近な人権問題に関心が高い。

人権啓発では、多様な人権問題と自分の人権問題の二つの要素を、統一的に扱わなければならない。そのためには、様々な人権問題の共通性（「重なり」）を明らかにして、他の人権問題を自分の人権問題として理解してもらう手法が求められる。例えば、高齢者と障がい者の人権問題には、互いに身体機能の低下という共通性（「重なり」）がある。女性と同和関係者の人権問題は、共に生まれに基づくという共通性（「重なり」）がある。個別人権問題だけの啓発では、「話はわかるが自分とは関係ない」（他人事）となるが、自分との共通点を認識することで他の人権課題への理解を深めることができる。

インターネットの人権問題、エイズ等感染者の人権、性同一性障害者の人権など新しい人権問題への関心は若い世代ほど高い。特に、インターネット関連の人権問題への関心が前回調査（43.8%）以来、急速に高まっており、新たな啓発課題となっている。

県政世論調査（平成21年・香川県）や内閣府調査（平成24年）と比較するとほとんどの項目で高松市民の関心は高い。

### ▽他調査との比較（単位%）

	高松市調査	県政世論調査	内閣府調査
1 子どもの人権	56.4	32.6	38.1
2 障がい者の人権	55.9	54.3	39.4
3 高齢者の人権	53.3	39.2	34.8
4 インターネットの人権	46.8	35.6	36.0
5 女性の人権	38.5	26.4	26.9
6 同和問題	35.9	30.5	13.4
7 北朝鮮による拉致被害者の人権	31.3	35.8	26.5
8 犯罪被害者の人権	29.5	25.4	19.3